

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区北烏山 6 - 1 2 - 2 1
園名	西之谷保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

園庭の豊かな自然にもっと親しもう

<テーマの設定理由>

西之谷保育園には豊富な種類の樹木や花壇があり、広々とした豊かな自然環境の中で虫、木の実、花などに年齢にかかわらず親しんでいる。子どもたち自身が遊びに取り入れたいと思うことを自由に広げていく。、観察コーナーの充実、自然物を使った遊びの空間の充実など、様々な遊び、観察、変化を主体的に感じられるようなきっかけづくりをしながら、子どもたちの関心や探求心をさらに深めるため。

2. 活動スケジュール

1 回 （11 月）落ち葉をじっくり見てみよう

園庭に落ちている落ち葉を色々集め、一緒に触ったり比べたりくずしたりして観察をする。

2 回 （12 月）じっくり観察して描いてみよう

いつでも外でお絵描きができるセットを用意し、まずは一緒に絵を描いてみた。

3 回 （12 月）落ち葉を使って作ってみよう

落ち葉と一緒に集めて、それを紙に貼ったり絵を描いたりして遊んだ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

集めたその場所で作業ができるように、園庭にデッキやテーブルセットを購入した。また、落ち葉や虫など自然に関する本や画用紙、クレヨンなど見つけたものをすぐに調べたり書いたりできるような環境を設定した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>



沢山の種類の葉が落ちる季節となり、子どもたちが葉っぱを集める姿があった。保育士が落ち葉に穴をあけてお化けを作ってみせると、子ども達は自分の持っていた葉に穴をあけようしたり、保育士により大きいものを探して持ってきたりして「お化けやって」という。その中で年長児が、ある葉っぱに穴を開けようとするとすぐに崩れてしまうことに気が付き、「これはクシャクシャになっちゃうからだめだよ」という。葉の種類によって、触った時の感触や乾き具合が違うことに気が付いた。

デッキを利用して、落ち葉の遊びに関心を持っていた児（主に 2 歳児）を誘い遊び始める。いつも用意している白い画用紙とクレヨン他に、大きな色画用紙とテープなども加えて保育士が貼りはじめると、子ども達は次々に葉を探してきて、比べたり並べたりしながら貼り始めた。フワフワ・パリパリなどの感触に夢中になる児もいて、「先生音がするよ」とはっぱを崩して見せる児がいた。一つずつつかんでは感触を楽しんでいた。誘われた 2 歳児が遊んでいた姿を見ていた他クラスの児が徐々に集まってくる。年中児は自分で絵を描いて、耳などに見立ててそれに合う大きさの葉を選んでくるなど、ものの形や大きさにも関心を寄せていた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

デッキは日常的主なものを持ってきてごっこ遊びを展開したり、ステージに見立ててショーを繰り広げたり、仰向けに寝て空を見上げたりと子どもたちの好きな場所である。

そのデッキに画用紙やクレヨン、マジックペン、テープなど身近な素材を自由に使えるように置くと、普段の描画からさらに自然物（葉っぱ）を使った遊びに発展していった。描画を楽しむことと併せてセロテープ、のりなども使い画用紙に葉っぱを貼ることが新鮮な体験になっていた。動物の耳に見立てたり、葉に穴を開けて顔を作ったりと想像力を膨らませている。自分の気づきを言葉で「○○みたい」「同じの作りたい」「○○できるかも」と友だちに伝えあい成長と共に関わり方も変化している。異年齢で関わるきっかけにもなり、年上の児の遊びからさまざまな刺激を受けていた。また個性を発揮する場にもなっており保育士も子どもの新たな一面を発見し語り合い、気づきの共有を積極的に行う機会になった。保育士が与えたり、完成形を決めたりせず、個人の発想を活かしその場で次々発展する自然物の遊びは季節を問わず楽しめると思う。現在、天候による保管場所の関係で、都度事務所に片づけているが、常設できる方法を検討中である。今後も新たな発見、豊かな発想など子どもひとり一人の「やってみよう」を大切にしたい。時には少しヒントになるような仕掛けも工夫しつつ、自然を楽しみながら規制のものでは味わえない「不思議」を感じる環境作りを子どもたちと一緒に積み重ねていく。